

「ピョルジュブジョン」

별주부전

ムン・イェウォン

昔々、とある深い海の中、
竜王の治めている国がありました。

竜王はキラキラで立派な
竜宮城に住んでいました。

毎日忙しく仕事をしていた竜王は、
ある日、突然病気にかかってしまいました。



竜王の臣たちは、
一番腕がいいと言われている
お医者さんを連れてきました。

お医者さん「竜王様は、気が弱くなって
病気になったんです。陸地に住んでいる
ウサギの肝臓を食べれば治るはずです。」



竜王様はその話を聞いて、こう言いました。

竜王「誰でもいいから、ウサギの肝臓を
持ってくる者に、ご褒美をあげよう。」



その話を聞いたタコ将軍は、



「私がウサギを捕まえてまいりましょう。」と言いました。

すると、スッポン大臣は、



「タコ将軍が陸地に出たら、すぐ人間に捕まれて
ぶくぶく煮られるはずです。」と言いました。

竜王はうなずきながら、スッポン大臣に言いました。



「では、スッポン大臣が行ってくれるか。」

スッポン大臣「ええ、私が行ってまいりましょう。」



スッポン大臣は、
カニ大臣が描いてくれたウサギの絵を持って、
びちゃびちゃ泳ぎ、陸地に出ました。

ちょうどその時、ウサギはスッポン大臣の前を
ぴょんぴょん飛び歩いていました。

スッポン大臣「耳がつんとしていて、前足が短い、
あれがウサギに間違いない。」





スッポン大臣は、岩によって休んでいるウサギに
声を掛けました。



スッポン大臣「もしかして、陸地の王、
ウサギ先生ではないでしょうか。」

ウサギは、陸地の王という言葉にいい気になりました。



ウサギ「へえー」
「そう、私が陸地の王ですよ。」
「ところで、あなたは誰？」

ウサギはスッポンを始めてみたという顔で聞きました。

スッポン大臣「私は海の中にある竜宮から来たスッポン大臣です。
陸地の王様に会うために遠くから来ました。」



ウサギは嬉しそうに笑いました。

ウサギ「ハハハ、よく来ましたね。これはこれは光栄です。」



スッポン大臣は知らんぷりをしながら、ウサギに聞きました。

スッポン大臣「ずっと陸地に住んでいては、退屈で、
嫌気がするはずですが、私と一緒に竜宮に
行ってみませんか？」



ウサギはスッポンのとんでもない話に、こう言いました。

ウサギ「あんたは陸地の動物が海の中に入ったら、
死ぬってことを知らないんですか？」



スッポン大臣「心配しなくても、私が先生を
安全に連れていきますから。」



ウサギは迷った顔をしました。
スッポン大臣は、そんなウサギをあおり続けました。

スッポン大臣「海の中は、恐ろしい狼もいないし、
タカもいませんよ。」





ウサギ「私は狼やタカを恐れないんですが…」

ウサギは、まるで自分が本当の陸地の王になったように
話しを続けました。

それからしばらくすると、しっぽを巻いてこう言いました。



ウサギ「陸地の王なら、海を見ておく必要もあるなぁ。
スッポン大臣を信じて、一緒に行ってみますね。」

ウサギはスッポンの背中に乗って、海に入りました。

ウサギ「わあ、海の中は本当素敵ですね。」



スッポン大臣「そうですよね、来てよかったですよね。」



彼らはあっという間に、竜宮城に着きました。
スッポン大臣は、笑いを隠しながら竜宮城の中に入りました。





スッポン大臣「竜王様、ウサギを捕めてまいりました！」



隣にいたタコ将軍は、長い足でウサギを掴みました。



ウサギ「待って！私が何をしたっていうんだ！」



ウサギは、震えた声で言いました。

スッポン大臣「ハハハ、早く肝臓を渡せ！」



ウサギは、スッポン大臣に騙されたことに気づきました。

ウサギ「肝臓だと？！」 

スッポン大臣「そう。あんたの肝臓を食べれば、
竜王様の病気がすぐ直るって聞いたのだ。」 

ウサギ「これで私は死んでしまうのか……」 

ウサギは、怖がりながら言いました。
その時、ウサギにいい考えがふっと思い浮かべました。

ウサギ「何でもっと早く言ってくれなかったんですか！」
「あのあほっぽいスッポンが教えてくれなかったせいで、
今何にも持ってないんですよ！」



臣たちは、ウサギの話を聞いて、びっくりしました。

竜王「何だと？では、今おぬしの体には、
肝臓がないって言うのか？！」



ウサギは、竜王に近づいてはっきり言いました。





ウサギ「我々ウサギたちは、とてもきれい好きなんです。
だから毎朝、肝臓を出して、きれいに洗った後、
温かい日差しに乾かして、体に戻しておくんです。」



竜王はウサギの言葉を簡単に信じられなかったです。

スッポン大臣「ウサギは、肝臓を出しておいても
生きられるってことなのか！」



ウサギ「もちろんです！スッポンが先に言ってくれてたなら、
きれいに洗った肝臓を、竜王様に差し上げたのに・・・」



竜王はかっと怒りながら、大声でスッポン大臣に言いました。

竜王「スッポン大臣、早くウサギと陸地へ戻り、
　　肝臓をもらいたまえ！」



スッポン大臣は、どたばたウサギを連れて、陸地へ上がりました。
そして、落ち込んだ声で言いました。

スッポン大臣「ウサギよ、早く肝臓を持ってきてくれ。」



しかし、ウサギは大声で笑いながら叫びました。

ウサギ「ハハハハ！あんた、嘘つきだと思ったら、
あほだったな！！」
「肝臓を入れたり出したりする生き物が、
この世にいるとでも思ったのか！！」



ウサギは、ぴょんぴょん逃げながら、スッポンをからかいました。







スッポン大臣は、がっかりしながら、おいおい泣きました。

スッポン大臣「どうしよう・・・竜王様の薬を
どこで探せばいいんだ・・・。」



こうして結局、スッポン大臣は、肝臓を持ってこなかったゆえ、
竜宮城から追い出されてしまいました。

終わり。